

「若い世代が希望持てる未来を」寂

聴さん 脱原発ハンスト 東京新聞5/3

作家の瀬戸内寂聴さん(89)らは二日、東京・霞が関の経済産業省前で、関西電力大飯原発(福井県おおい町)の再稼働に反対する市民らが続けている集団ハンストに参加。雨が降る中、テントに入り、午後になっても座り込みを決定した。

参加したのは、寂聴さんと作家の沢地久枝さん(81)、ルポライターの鎌田慧さん(73)。午後から作家の落合恵子さん(67)も加わり、再稼働反対を訴えた。

寂聴さんは「態度がはつきりせず長いものに巻かれがちな日本人が多い中で、再稼働が進みそうで怖い」と話し、「もっと若い世代が希望を持てる未来を」と、脱原発への政策転換を訴えた。

昨年、体調を崩しながらも全国で一千万人の脱原発署名を集める運動に参加し、集会にも足を運んできた沢地さんは「民主主義とは主体的に考え行動すること。脱原発



への思いがあれば、まずは署名することから行動してほしい」と呼びかけた。

また落合さんは「原発は人の命や子ども未来に対するテロ。政府が再稼働を焦っている今こそ、ひるまず、ぶれずに異議を唱えよう」と語った。ハンストをしていた一人で「原発いらない福島の人たち」の椎名千恵子さん(65)は「著名な作家の方々が参加してくれたことで、脱原発の意識をぼんやり抱いていた人たちが、思いを少しでも行動に結びつけてくれたら」と歓迎した。

作家の瀬戸内寂聴さん(89)らが二日、東京・霞が関の経済産業省前で座り込みをして脱原発を訴えた。関西電力大飯原発(福井県おおい町)の再稼働に反対する市民らが続けている集団ハンストに加わり、再稼働を進める政府の姿勢に抗議した。日没まで続ける予定。

午前9時すぎに紫色の法衣姿で現れた寂聴さんは、胸元に「再稼働反対」の鉢巻きを留めて座り、「90のはあさんがここに座ったら、マスコミに取り上げられ、それを見た若者が張り切って行動してくれると思う」と話した。

どうしても原発を動かしたい関

西電力の裏事情 そもそも総研より

玉川・電気が足りないといついそ事ばいしもなまじいだなじゃあ何で足りないとかができるの、再稼働、再稼働なんだ？っていつ話をわたへし古賀さん

聞いてきました。

大阪市統合本部古賀茂明特別顧問：関西電力にこの間エネルギー戦略会議に行つて、関西電力に質問してみたんですね。彼らが言っているのは電力が足りないから動かすんじゃないやませと

電力需給と原発を動かすかどうかは関係ありません」といついふうにはつきり何回も聞いたんですけど、ハッキリ言いきました。

関西電力 エネルギー戦略会議4月24日

関西電力・基本的には安全な原子炉は稼働させていただきたい。需給の問題とは切り離して考えております。夏場の需要とは、あの、関係を考えておりません。

玉川：なんで関西電力はそんなに原発を動かしたいんだという事なんですか？これは何のためですか？

古賀：これは、企業としての事情があるんですね。関西電力の純資産が今1.8兆とか、ま、2兆円弱あるんですけどもその純資産を構成している資産のうちですね、原子力発電設備と、それから原子力の燃料。

これを合わせた資産がですね、8000億から9000億ぐらい、大体半分ぐらいはありますね。そのうちの、それをもう使えないんですよ





「その時点で債務超過になってしまうという可能性はあるという事ですね。」

玉川：債務超過という事は、要するに破たんですか？

古賀：そうですね。「これは絶対に避けなければならぬ」といいますから、従ってもう永久に動かす。管内にある原子力発電設備は基本的に動かすんです。

羽鳥：うーん・電力不足に



は関係ないという事ですね。」

玉川：関係ないという関西電力が言っている訳です。つまり、経営のために動かしたいという事があるわけですね。もう一回いいます。もう一回、古賀さんのインタビューの時よりも新しい決算が出たんで、その新しい決算に基づくと、純資産、資産から負債を、ま、貯金から借金を引いたもので、それが一兆5000億円の位置になります。もう一回、その中に原子力関係の資産というのが、発電設備と核燃料を合わせた5000億くらい。で、これをもし使わないという事になるという、これが資産から落ちちゃったとします。そうすると、そこからこれを引くと、6391億円になります。いま、赤字記帳です。赤字記帳で、2011年度に2400億を超える赤字で、これがあと2年くらい続くと、純資産がなくなっちゃってわけですね。そうすると破たんだよ。どういふところで、もかく関西電力は動かしたいというのには、もちろん安全が確認されたらという事は、関西電力も言っていますけれど、ただ、経営のために動かしたいんだ。

だから電気が足りる足りないじゃなくて、一基全部動かしたいんです。

赤江：この理論でいくと関西電力はもう永遠に原発を続けていきたい。

玉川：永遠に原発を続けていかないうちで、できないような経営状況というかね、そういうふうな形まで来てしまったんですよ。原発をそれだけ増やし

たという事ですね。」

立花：関西電力は自分の会社が倒産しないために、原発をずっと動かして続けたという事ですね。

玉川：それはそのとおりで、そのまんま、関電は言っています。それだけじゃないんですよ。実はですね、これはいま、バランスシートの話ですけど、その前に総括原価方式というのがありました。これは、じゃあ利益というのをやりますか？という事したら、資産にたぶん50%とかをかけた方が利益なる。だから資産の部分が、とくと無くなるという、資産から生まれる利益も、とくと無くなるわけですね。仮に原子力関係の資産が900億たいてい、50%だとすると、450億、4です。よね、だから200何10億とどうお金が、毎年入ってくる筈だった利益が無くなっちゃう訳です。だからこれも大きいんです。みんな楽しく、HAPPYがいっぱい、ブーブー)

放射能を避ける母子保養支援報告

春の保養が終了した。4月23日最後の家族が帰り、光円寺はガランとした。滞在期日は色々で、約一ヶ月の滞在期間だったが、お母さん達がつながって、こどもたちがよく遊びとても充実した日々だった。車の手配、送迎、食材の提供、こどもの守り、おやつ作り、マッサージ、アートセラピー、プロセスワーク、毎日のお朝事(本堂での勤行と、法話、感話)

など色々な尽力に感謝。

お母さん達はこの一年子どもを守ってくることので精一杯だったけど、日常を離れ、共同生活で協力し合い、情報交換し合い、安心してお互いの気持ちを分け合い、保養も様々な意味で深まったようだ。

力をつけて敵しい日常へ帰っていかれた。一子どもたちも慣れない環境で、お朝事や掃除も参加し、協同生活のストレスを耐えて、一回り成長したように思われた。何と云っても、「安心して外に出られる」という、ことごとく欠かすことのできない世界があるということ・・・。それが無い日常を暮らしている子どもたちが、思い切り遊べた、普通に暮らせたということだった。

ガイガーカウンターで0.1mSv/h以上の数値で放射能数値が上がっているのかと心配していたが、高性能の放射能測定器で光円寺をアチラコチラ測ってもらったところ、場所によって数値が変化しないということから、放射性物質の汚染はないと結論が出た。花崗岩が多いとかで関西はもとの放射線量が高いそう。関東に比べ



5倍くらい。関東は0.02とかなかったのが今その10倍以上になっているとのこと。とにかく側溝や雨樋の下が高かったりすると、放射性物質が降っているということになるが、そういう違いがなかったのだ。

汚染がないとわかったので、元の野菜等は安心して提供できた。他の食材も放射能検査に力

を入れるコープ自然派にも色々問い合わせ、安全の確認してもらった。初期被曝をしているかもしれないのだからゼロバクレルでなければ。消費者が質問することで、担当者も意識がアップし、安価で安心できる自然派の商品が確保できることにつながる。放射能に関しては、誰もが未経験だから、一緒に勉強して行かなければならない。できるだけ多くの人がその必要性に目覚め、子どもを守ってくれるようにと願う。親以外守ってくれる人はいない。政府のすることを見れば今まで通りに暮らしていたら、子どもを被曝させてしまう。注意深く子どもを守ろうとする母たちがいれば、世の中は変わる。

しかしそれは日常的に大変難しいことになって来ている。見えない聞こえない匂わないう痛くない、被害は未来にある放射能の害を認識することはとても難しい。病気という形



で被害が来たとしても、放射能との因果関係は隠され続けているから、正確には証明されない。未来の危険性よりも、今手放すことができないものが人間にはたくさんある。汚染されたから、そこを離れるということとはそんなに簡単ではない。土地、人間関係は特に大きなものだろう。土地に根付いていなければいるほど難しいことだ。家族、親族、周囲の人

との日常の中で、意見が分かれ、小さなことで対立が生じる。公的な機関が全て政府の指示に従って、放射能の被害を過小評価するのだ。多くの人が、政府の言うことはもう信頼できないとわかっているのに、それを信用しようとする。その中で、危険性に目をつむることなく、子どもを守る行動をするお母さんが、どれほど大変かは想像がつく。周囲から一様に「フイローゼ」と「診断」され孤立し苦悩している。

今回たまたまプロセスワーカー 桐山岳大さんが来られ、一子どもたちが寝静まつてから、プロセスワーカーのグループワークをした。プロセスワークはその人に起きようとしている何かのプロセスを尊重し、それを言葉だけでなく、身ぶり、夢、人間関係、身体症状などに表現されるものから、それをビッグアップし、役割として表現してみることで、今まで閉じ込められていた視点から少し離れて風を通し、おのずから導かれる答えを本人が出して

行くことをサポートするといったような活動だ。まさにこの一年、大変な状況で過してきたお母さん達の、具体的な苦しみを入り口に、問題の本質に迫り、皆さん自分に出会い、新たな方向性を見つけるといふ展開があった。プロセスワークのグループでは、今後そついった取り組みを保養に提案、提供する予定だ。大変有効な取り組みだと思った。

会計面では、生活費は実費をもらい、交通費は新幹線片道分を補助した。総勢21人を招いたが、乳幼児の交通費はお母さんといっしょでいらないので、ずいぶんと効率的に補助ができた。冬の保養のカンパ残金から、交通費補助一四四、四七〇円を使った。福島からの参加がなかったので、約五万円があまり、福島に診療所（放射能に対応してくれる）を作るといふこと、TEAM二本松ホールボディーカウンター購入のカンパにあてようと思う。本来公がすべきことを民間でやらざるを得ない、逆にそれが本当の意味で「公」となる活動に力を寄せたい。（惟）

原子力行政を問う宗教師の会 4月17、18日

「2012フクシマ全国集会」会場：「リッセ福島、テーマ：命、フクシマで共に悩むー怒りと悲しみのこえに呼び覚まされてー」

「原子力行政を問う宗教師の会」では、久しく警告してきた「総ヒバクの危機」が現実となったこの時、全国各地から、その現地となっ

った福島に集い、私たち一人ひとりが、その危機をくい止めることができなかつた非力と罪を見つめ、福島の人々の深い悲しみと怒りの中に身を置いた。

「ただちに健康に支障を与える値ではない」は何度聞かされただろうか。今も安全キャンペーンは幾重にも張りめぐらされ、福島県民、特に子どもをもつ親たちを困惑させ、思考停止から分断、さらには対立へと導かせ、疲弊させている。実際は国が本来子どもたちを避難させるべき放射線管理区域の値を、優に超える環境の中に、子どもを含め留め置いたままであるにもかかわらず。

そして私たちは、そつした安全キャンペーンを根拠づけるものが「国」（国際放射線防護委員会）にあるととらえ、その歴史と思想性を学んだ。すなわち「放射線被曝防護」の基準が、人々の命や健康ではなく、原子力産業を守るために定められたことを。「ヒバクを強制する側がそれを強制される側に、ヒバクがやむをえないもので、我慢して受忍すべきものと思わせるため」の基準であり、手段であることを。

こつした考え方のもとに、これまで幾多のヒバク労働を生み出させ、フクシマの「緊急時」には、その基準をつり上げてまで、我慢、受忍を強要させてきた。「このち」の原則は、「疑わしきものは近寄らず」であり、国の施策は間違っている。

棄民を生み出す国策の姿が今はっきりと立ち現れた。「このちの尊厳」「立脚する私たちは、

これらの実態を看過することはもはや許されな

い。私たちは最も弱い立場の人々の側にいなければならぬからだ。安全がないのに「安全」「安全」と、平和がないのに「平和」「平和」と欺されようとしている状況を前に、悲しみにまで深められた怒りの思いを抱きつつ、以下を要望する。

宛先：福島県知事 佐藤雄平 殿

①子どもの保養（避難・疎開）企画を支援する事業の対象を、県内だけでなく県外にも拡げること。

②『放射線副読本』を用いないこと。

宛先：経済産業省大臣 枝野幸男様
厚生労働省大臣 小宮山陽子様

原発事故収束担当大臣 細野豪志様

文部科学大臣 平野博文様

復興大臣 平野達男様

①低線量内部被曝の影響については、世界の専門家の間でも意見の大きく分かれるところであるので、福島県に住む方々が、避難・残留どちらの選択をする場合にも、その選択の自由と生活の保障、また長期にわたる医療保障をすること。

②国はこれまで原発の危険性を隠し、推進してきたことを、国民に謝罪すること。

③放射線副読本の内容を再検討すること。

④全国どここの原発についても、再稼働をしないこと。

*放射線副読本―学校に配られた冊子。問題が各方面から指摘されている。